

日本産鳥類記録リスト(1)

川路則友・平岡 考・梶田 学・浦野栄一郎*・
柳沢紀夫・西海 功・金井 裕・池長裕史・亀
谷辰朗(日本産鳥類記録委員会)

1. コシジロイソヒヨドリ *Monticola saxatilis* (表1)

日本鳥類目録改訂第6版では、同定可能な写真がない、自然分布とするには疑問があるという理由で、検討中の種とされている。本委員会の調査により、文献上3例の記録が確認されたが(表1)、うち2例は後述するように人為的ミスによるものであり、実際の記録は1例のみである。

記録1(川田1982a)、記録2(静岡の鳥編集委員会1998)および記録3(五百沢他2000)は、それぞれ記録日が異なっているため別記録として掲載したが、記録地名などの状況はほぼ一致している。記録者本人による詳細な記述が掲載されている川田(1982a)によれば、記録1の個体が観察されたのは1982年5月29日のみで、「観察できたのは1日だけで翌日は見られなかった」と明記されており、記録1の関連文献(川田1982b)にも「翌日、もう一度同地を訪れましたが、残念ながら再び見ることはできませんでした」と同様の内容が掲載されている。これらのことから、静岡の鳥編集委員会(1998)と五百沢他(2000)の記録日は誤植または誤記と推測され(特に静岡の鳥編集委員会1998には、川田1982bを引用したことが明記されている)、記録1-3は全て同一記録と考えられる。写真については、川田(1982b)にモノクロ写真2枚、五百沢他(2000)にカラー写真1枚(いずれも川田 隆氏撮影)が掲載されている。なお、川田(1982a, b)は本種の和名として「コシジロイソヒヨ」を使用している。

引用文献(文献番号は、表中の数値に対応)

1. 五百沢日丸・山形則男・吉野俊幸(2000)日本の鳥550 山野の鳥。文一総合出版 359 pp。(写真の掲載は、p. 178)
2. 川田 隆(1982a)コシジロイソヒヨの日本初記録について、Strix 1: 122-123.
3. 川田 隆(1982b)本邦初記録!!コシジロイソヒヨ。野鳥 47(10): 4.
4. 静岡の鳥編集委員会(1998)静岡県の鳥類。静岡県環境部自然保護課。237 pp。(記録の掲載は、p. 155)

2. ヒメイソヒヨ *Monticola guralis* (表2)

日本鳥類目録改訂第6版には、記録として8例が挙げられている。本委員会の調査により文献上24例の記録が確認されたが(表2)、うち2例は後述するように、人為的ミスによるものであり、実際の記録は22例である。

記録1(内田1972)、記録2(Ogasawara 1969)、は記録日が異なっているため別記録として掲載したが、記録日以外の状況はほぼ一致している。記録の詳細が記述されている Ogasawara (1969)に「発見されたのは1969年5月24日である」(原文英語)と明記されていることから、内田(1972)の記録日は誤植または誤記によるものと推測され、記録1と2は同一記録と考えられる。内田(1972)の誤った記録日は、そのまま清棲(1978)にも掲載されている。

記録2の裏付けとなる標本(本剥製標本)については、Ogasawara(1969)に著者(小笠原 嵩氏)所蔵と記述されているが、その後、発見者Aoyagi氏に返却され、現在の保管状況は不明であるという(小笠原 嵩氏私信)。この個体の発見の経緯については、内田(1972)に「1969年5月22日、秋田市内の清水公園で、高校生が1羽の見なれぬ小鳥を保護した。どうやら渡りの途中、コースをはずれた長旅をして弱ったものと思われた。生きえさを与えて手当をしたが、どうしても人になじまず、衰弱の末、5日めに死亡した。これが、日本でのたった一度のヒメイソヒヨの記録である。」との記述があることから、保護された個体が5日後に死亡し、標本として保管されるに至ったことが類推される(ただし、記録日は前述のように誤りと思われる)。

記録3(McWhirter 他1996)の記録者については、Yoshimi とのみ記述されているが、McWhirter 他(1996)の著者によれば吉見光治氏とのことである。なお、記録3の個体の年齢について、McWhirter 他(1996)には記述がないが、同一記録が掲載されている沖縄野鳥研究会(2002)には「成鳥」と記述されている。

記録4(山田1989)と記録5(寺沢1999)は、記録日が一部異なっているため別記録として掲載したが、撮影場所・撮影者・記録年月が一致している。記録者本人によって記録の詳細が記述されている寺沢(1999)に「観察されたのは1986年5月26日、28日の2日間のみであった」と明記されて

表1. コシジロイソヒヨドリ *Monticola saxatilis*

No.	記録年月日	県	地名	年齢	性別	個体数	記録者	状況	写真の掲載	文献	関連文献
1	1982.5.29	静岡県	周知郡春野町杉川林道	成鳥	オス	1	川田 隆	観察, 撮影	—	2	3
2	1982.5.30#	静岡県	春野町	—	—	1	川田 隆	観察	—	4	
3	P 1982.5.31#	静岡県	春野町	第1回夏羽	オス	1	川田 隆	—	カラー1, 川田 隆	1	

—: 記述なし・掲載なし

#: 誤植または誤記・誤引用と思われる

P: 写真と最小限の記述(種名, 記録地, 年月日, 場所, 記録者など)のみ

いることから, 山田(1989)の記録日のうち27日は誤記または誤植によるものと推測され, 記録4と5は同一記録であると考えられる。山田(1989)の誤った記録日は, バーダー編集部(1993)にも, そのまま掲載されている。なお, 記録5については, 寺沢(2000)にも同一個体のカラー写真2枚(寺沢孝毅氏撮影)と観察された際の状況が掲載されている。

記録6は, Brazil(1991)に「H. Higuchi in litt.」(手紙による私信)として掲載されているものだが, 記録年月日と記録場所のみの記述である。非直接観察者(樋口広芳氏本人に確認済み)からの私信によるものであり, 他に同記録を裏付ける文献も発見できなかった。本記録は, 寺沢(1999)に引用されており, その他多くの文献(五百沢他 2000, 寺沢 2000, 山田 1989, 山階鳥類研究所標識調査室 1994)にこの記述を基にしたと推測される三宅島の記録が掲載されている。

記録7~12, 15~24はすべて舳倉島における記録である。なお, 記録8の記録地は輪島市となっているが, 舳倉島での記録であることが判明している(小山慎司氏私信)。同島では, 文献上, 記録年月日の異なる16例が確認できた。1993年および2001年の記録中には記録日が連続していることなどから, 同一個体の可能性が高い記録もあるが, この点について言及している文献がないことから, 全て別記録として扱った。

記録7については, 日本野鳥の会野鳥記録検討会(1993)に「写真有り」との記述があるが, 掲載はされていない。記録8は, 叶内他(1998)に掲載されている成鳥雄とされる1個体のカラー写真1枚(小山慎司氏撮影)の撮影日が, 日本野鳥の会石川支部(2000)に小山慎司氏の私信として掲載されたものである。記録9(バーダー編集部 1993), 10(バーダー編集部 1994a), 16(五百沢他 2000)は

いずれも写真が掲載されている。記録11, 12, 15, 17 および 18 は全て橘(1999)によるもので, 記録12の写真が掲載されている以外は, いずれも記録地名・記録年月日・性別・個体数が掲載されているのみである。なお, 記録17については記録期間中の1994年5月22日に舳倉島にて撮影されたとされるオス1羽のカラー写真1枚(山形則男氏撮影)が五百沢他(2000)に掲載されている。記録19(日本野鳥の会石川支部 1999)と20(日本野鳥の会石川支部 2000)は, 目視によって確認されたものである。なお, 記録19は, 橘(1999)にも同一日の記録が掲載されている。記録21, 22, 23, 24は全て日本野鳥の会石川支部(2002)によるもので, このうち記録21, 24は目視で確認されたものであり, 記録22, 23は写真により確認されたことが明記されているが, いずれも写真の掲載はされていない。ただし, 記録24については, 同一日に撮影された個体のカラー写真1枚(黒田昌紀氏撮影)が, バーダー編集部(2002)に掲載されている。なお, この写真の撮影地は, 「石川県輪島市」とのみ掲載されているが, 撮影者黒田昌紀氏からの私信により舳倉島であることが判明したので, 記録24と同一記録として扱った。また, 記録24の個体の年齢について, 日本野鳥の会石川支部(2002)には記述がないが, バーダー編集部(2002)では「おそらく成鳥」とされている。

記録13と記録14(いずれも山階鳥類研究所標識調査室 1994)は, 同一時期の相ノ島における標識・観察記録である。記録13の観察個体数については, 「前日には, 同島で雄5羽, 雌2羽が見られている」(山階鳥類研究所標識調査室 1994), 「最低でも雄4羽雌2羽はいたそうである」(岡部 1994)と文献により微妙に異なっている(ただし, これらの記述はいずれも伝聞によるもので, 著者は直接観察していない)。なお, 岡部(1994)には記録

表2. ヒメインソビ *Monticola gularis*

No.	記録年月日	県	地名	年齢	性別	個体数	記録者	状況	写真の掲載	文献	関連文献
1	D 1969.5.22#	秋田県	秋田市内	—	メス	1	—	捕獲	—	24	8
2	1969.5.24	秋田県	秋田市土崎高清水公園	おそらく若鳥	メス	1	Ryuji Aoyagi	標本	モノクロ1(標本写真)	18	—
3	D 1986.2.11	沖縄県	西表島船浦	—	オス	1	Yoshimi	観察	—	9	20
4	1986.5.26, 27#	北海道	天売島	—	オス	1	寺沢孝毅	観察, 撮影	モノクロ1, 寺沢孝毅	25	1
5	1986.5.26, 28	北海道	天売島	—	オス	1	寺沢孝毅	観察, 撮影	モノクロ1	22	23
6	D 1986.6.9	東京都	三宅島	—	—	—	—	—	—	5	—
7	D 1993.5.15	石川県	舂倉島	—	オス	2	田儀周久, 真木広造, 柴崎 鋼, 天置重豊, 加藤 聡, 大島一郎, 品川喜久馬, 川野紀夫	撮影	—	17	13, 21
8	D 1993.5.16	石川県	輪島市	—	—	—	小山慎司	撮影	—	15	7
9	P 1993.5.17	石川県	舂倉島	第1回夏羽	オス	1	土橋信夫	撮影	カラー1, 土橋信夫	1	—
10	P 1993.5.20	石川県	舂倉島	—	オス	1	山形則男	撮影	カラー1, 山形則男	2	—
11	D 1993.5.21	石川県	舂倉島	—	オス	1	—	観察	—	21	—
12	P 1993.5.22	石川県	舂倉島	第1回夏羽	オス	1	橋 映州	撮影	カラー1, 橋 映州	21	—
13	1993.5.23	福岡県	粕屋郡新宮町相ノ島	—	オス・メス	5・2	—	観察	—	26	19
14	1993.5.24	福岡県	粕屋郡新宮町相ノ島	第1回夏羽	メス	1	岡部海都, 増田智久	標識	モノクロ1, 岡部海都	26	3, 19
15	D 1993.5.27	石川県	舂倉島	—	メス	1	—	観察	—	21	—
16	P 1993.5.29	石川県	舂倉島	—	メス	1	小山慎司	—	カラー1, 小山慎司	6	—
17	D 1994.5.18-24	石川県	舂倉島	—	オス・メス	1・1	—	観察	—	21	6
18	D 1996.5.25	石川県	舂倉島	—	オス	1	—	観察	—	21	—
19	D 1998.5.21	石川県	舂倉島	—	オス	1	橋 映州, 中村久夫, 宮保 章	観察	—	14	21
20	D 1999.5.30	石川県	舂倉島	—	オス	1	小山慎司, 大西敏一他	観察	—	15	—
21	D 2001.5.12	石川県	舂倉島	—	オス	1	山形則男, 笹原裕二, 平野賢次	観察	—	16	—
22	D 2001.5.13	石川県	舂倉島	—	—	1	橋 映州	撮影	—	16	—
23	D 2001.5.15	石川県	舂倉島	—	オス	1	山森政昭	撮影	—	16	—
24	D 2001.10.7	石川県	舂倉島	—	オス	1	渡辺靖夫	観察	—	16	4

—: 記述なし・掲載なし

#: 誤植または誤記・誤引用と思われる

D: 最小限の記述(種名, 記録地, 年月日, 場所, 記録者など)のみ

P: 写真と最小限の記述(種名, 記録地, 年月日, 場所, 記録者など)のみ

年の記述がないが、翌日に記録14の個体を標識したことが記述されていることから1993年と類推し、記録13と同一記録として扱った。

記録14の個体については、岡部(1994)にも捕獲者本人による状況の詳細な記述とモノクロ写真6枚(撮影者名の記述なし)が掲載されている(岡部1994にはこの記録についても記録年の記述がないが、標識個体のリングナンバーが一致していることから記録14と同一記録として扱った)。同一個体の写真は、バーダー編集部(1994b)にもカラー写真3枚(岡部海都氏撮影)が掲載されている。個体の年齢については、山階鳥類研究所標識調査室(1994)で第1回夏羽としているが、バーダー編集部(1994b)、岡部(1994)では「第1回夏羽?」と疑問符付きである。なお、岡部(1994)の記述には、文脈から推測すると記録14と同日同所において本種の雄2個体が観察されたとの内容が含まれているが、種名の記述および記録年の記述に欠けており、他に同一の記録の詳細を掲載した文献も発見できなかったため、参考として挙げるにとどめる。

以上のほか、表には挙げていないが、記録1に先立ち、1926年11月25日に開かれた日本鳥学会第27回例会で「下野日光産(?)」とされる初山徳太郎氏所蔵の本種標本雄1体が供覧されたという記録があるが(日本鳥学会1927)、採集地が疑問符付きであることに加え、採集年月日も記述されていない。その後出版された日本鳥類目録改訂版(日本鳥学会1932)、同改訂第3版(日本鳥学会1942)も、初山氏の協力を得たと明記しているにも関わらず、この記録を掲載していない。しかし、日本初記録の可能性が残されていることから、参考として紹介しておく。なお、初山氏の標本は、現在その大半が山階鳥類研究所に所蔵されているが、その中にこの記録に該当する標本は含まれておらず、この標本は現在行方不明である。

引用文献(文献番号は、表中の数値に対応)

1. バーダー編集部(1993) タイトルなし。Birder 7 (7): 1, 3。(写真の掲載は, p. 1)
2. バーダー編集部(1994a) 大型ツグミカレンダー。Birder 8 (4): 10-17。(写真の掲載は, p. 14)
3. バーダー編集部(1994b) 大型ツグミをじっくり見る。Birder 8 (4): 18-19, 22-23, 28-29, 32-33。(写真の掲載は, p. 33)
4. バーダー編集部(2002) 写真集 日本産鳥類 2001。文一総合出版 108 pp。(写真の掲載は, p. 92)
5. Brazil, M. (1991) The birds of Japan. Christopher Helm, London。(記録の掲載は, p. 217)
6. 五百沢日丸・山形則男・吉野俊幸(2000) 日本の鳥 550 山野の鳥。文一総合出版 359 pp。(写真の掲載は, p. 180)
7. 叶内拓哉・安部直哉・上田秀雄(1998) 山溪ハンディ図鑑7 日本の野鳥。株式会社山と溪谷社。623 pp。(記録の掲載は, p. 477)
8. 清椋保之(1978) 増補改訂版日本鳥類大図鑑補遺。講談社, 東京。180 pp。(記録の掲載は, p. 153)
9. McWhirter, D. W.・池長裕史・五百沢日丸・庄山守・嵩原健二(1996) A Check-list of the birds of Okinawa Prefecture with notes on recent status including hypothetical records (最近の生息状況と参考記録を含めた沖縄県産鳥類目録)。沖縄県立博物館紀要(22): 33-152。(記録の掲載は, p. 107)
10. 日本鳥学会(1927) 第二十七回例会。鳥 5: 318-321。
11. 日本鳥学会(1932) 改訂日本鳥類目録。211 pp。
12. 日本鳥学会(1942) 日本鳥類目録(改訂三版)。238 pp。
13. 日本野鳥の会(1993) フィールドノート。野鳥 58 (9/10): 61。
14. 日本野鳥の会石川支部(1999) 石川野鳥年鑑1998。68 pp。(記録の掲載は, p. 42)
15. 日本野鳥の会石川支部(2000) 石川野鳥年鑑1999。90 pp。(記録の掲載は, p. 45, 89)
16. 日本野鳥の会石川支部(2002) 石川野鳥年鑑2001。98 pp。(記録の掲載は, p. 42)
17. 日本野鳥の会野鳥記録検討会(1993) 野鳥情報・観察記録1992.8-1993.6。Strix 12: 259-264。
18. Ogasawara, K. (1969) *Monticola gularis* obtained in Akita City; new to Japan. Misc. Rep. Yamashina Inst. Ornithol. 5: 684-685。
19. 岡部海都(1994) ヒメイソヒヨの標識放鳥記録。バンダーニュース(8): 14-15。
20. 沖縄野鳥研究会(2002) 沖縄の野鳥。新報出版。336 pp。(記録の掲載は, p. 317)
21. 橋 映州(1999) 触倉の鳥たち。橋本確文堂。179 pp。(写真・記録の掲載は, p. 159)
22. 寺沢孝毅(1999) 北海道天売島におけるヒメイソヒヨ *Monticola gularis* の記録。日本鳥学会誌 47: 143-144。
23. 寺沢孝毅(2000) ヒメイソヒヨ大陸から迷行する鳥。寺沢孝毅(編) 北海道島の野鳥: 44-45。北海道新聞社, 札幌市。
24. 内田康夫(1972) 日本迷鳥録4 ヒメイソヒヨ *Monticola gularis*。朝日=ラールズ週間世界動物百科(68): 2。
25. 山田良造(1989) 北海道に舞い降りた迷鳥たち。北海道野鳥だより(76): 3-4。
26. 山階鳥類研究所標識研究室(1994) 環境庁委託調査平成5年度鳥類観測ステーション報告。環境庁。211 pp。(写真・記録の掲載は, p. 12)

* 第1期(1999-2001) 記録委員